

老いぼれゴルファーの九州縦断ツアー

渡若造は間もなく満73歳を迎えます

近頃は卓球の合間にゴルフをしています、なかなか90を切ることができず、落胆の連続で情熱も冷めてきました。

仕事で親しくなった友人が8年前に家を新築したので「是非、鹿児島へ来るよう」お誘いを受けていたので、元気で動ける間に訪問することにした。鹿児島まで行けば宮崎の友人とも再会を楽しみたいので日南市の友人にも連絡を入れた。宮崎空港から帰宅するつもりだったが、福岡の友人が「九州へ来てそのまま帰ることはない。別府まで出かけ文書1冊から逢おう」と強引に勧誘され、かくて5泊6日の九州縦断ツアーを敢行することになった。久しぶりの国内線搭乗のため羽田空港へ行ったがトンダチョンボから旅行は始まった。

羽田から鹿児島までの運賃は正規だと39,070円もするので、予約はできないが空席待ちのシニア割引航空券(満65歳以上で証明書が必要)を12,170円で購入し搭乗口に向かう。搭乗口で荷物と身体検査を受けたが警報が鳴り通過できない。小銭入れと携帯電話を取り出しても警報は鳴る。今度はベルトを外しても同じである。3回目は遂に靴を脱ぐと鳴らなかった。外部から見えないが、革靴の中に金属がはめ込まれているようだ。

無事検査を通過し搭乗口に向かっていたが馬鹿に肩が軽い。荷物が無いのである。売店にもトイレにも寄っていないのにおかしい。搭乗口で荷物を受け取っていなかったのです。慌てて取りに戻ると係員が大声で探していた。かくして無事に羽田を飛び立った。鹿児島空港には友人が出迎えてくれていた。まず真っ先に彼の家とは逆方向の鹿児島市内へ向かった。福岡支店在勤中に接触していた系列会社の元社長が突然難病で歩けなくなり、手術後リハビリに通っておられると知ったからである。事前に連絡せず、突然自宅を訪ねた。元社長は想像していたよりお元気で、顔色も良かったので安心した。友人が8年前に新築した大きな家では奥さんが出迎えてくれた。20年前に結婚された直後にお会いしているので懐かしかった。

翌日は祁答院ゴルフクラブでプレーした。友人宅の近くに数か所ゴルフ場があるが、折角遠方から来たのだから評判の良いゴルフ場を予約してくれていた。ここは東建カップトーナメントを長く開催したコースで、尾崎3兄弟の正月番組の録画撮影をしばしば行ったコースである。ところが当日は裏目に出た。風が強く寒さを感じるだけならまだしもグリーンの手入れのため大きな穴を開け砂をまいた直後だったのです。4パットを2回もするし散々なゴルフだった。報告したくないがスコアを記すと、宮崎県延岡市近くから駆け付けたAさん103、Yさん114、Yさん夫人113、若造96でした。当夜は北九州近郊からやってきたYTさんを変え、友人が経営する居酒屋でたっぷり刺身と焼酎をご馳走になった。



3日目 AさんとYTさんと3人で九州自動車道を通り宮崎レイクサイドゴルフクラブへ行く。

そこには日南市で小売店を経営するIさんが待っていた。ここもコースレートはBTで73,7、RTで72,0、FTで69,7の難しいコースだった。コース内の桜は満開を過ぎ散りかけていたが、桜をバックに撮影し、久しぶりに若いお嬢さんキャディに恵まれたの

で鼻の下を伸ばしてツーショットを撮った。多くの池、砲台グリーン、バンカーだらけのコースは我々老いぼれゴルファーにとっては厳し過ぎた。おまけにスタート時には台風を思わせる強風が吹いていたので、メロメロのゴルフとなった。

Iさん100、Aさん103、YTさん116、若造98でした。

終了後に日南市まで行き宴会となった。地元のIさんが卸売市場で買った大きな魚を刺身にしてもらい食べたが、食べ切れなかった





4日目は移動日である。

日南から別府の先の亀川駅まで5時間近くの電車の旅は何年ぶりか思い出せない。驚いたのは民営化したJRのサービスのよい事だった。切符はファミリークラブに入会して購入すると200キロ以上であれば乗車券・特急券とも4割引きとなる。入会金1500円を支払っても約2000円も安上がりとなった。これはJR九州だけのキャンペーンであろう。窓口の若い駅員は大分での乗換など時刻をパソコンから印刷してくれる親切さである。車窓から見る田舎の景色は昔と異なり、家はどこも都会と同じ屋根であり姿かたちで、ローカルな光景は見られなかったのは残念であった。

亀川駅には福岡からやってきた2人の友人が出迎えてくれた。別府ゴルフ倶楽部のロッジへ行ったが、時間が早く管理人がいない。3人は傍にあるアプローチ練習場で練習をしたが、3人とも上手くアプローチできない。練習でできないのだから本番で上手くゆく筈がないのが分かる。夜は大分で現役社長を続ける友人がやって来て関サバ・関アジの船盛りを提供してくれた。連日の刺身をたらふく食べた。





5日目は別府ゴルフ倶楽部鶴見コースを回った。ラッキーだったのは由布コースであれば、
祁答院ゴルフ同様にグリーンに穴を開ける手入れ中だったのである。このゴルフ場は19
30年開業で九州では雲仙に続く2番目に古いゴルフ場である。ハウスはバブル時に完成
しただけあって大きな建物だったが外装が汚くなり工事に取り掛かっていた。フロントが
入口から最も遠い奥にあったのが珍しかった。コース中の桜が自慢のゴルフ場だが予想に
反しまだ満開ではなかった。標高が高く低温だからだ。関東地方が満開だったのに皮肉な
現象でした。古いゴルフ場なので手作りできており、フェアウェイには大きなうねり
があり、左右どちらかに傾斜しているのが難易度は最高。
因みにBT6853ヤード、RT6450ヤードで、コースレートはBT72, 7、RT
70, 7でした。

快晴・無風で最終回のプレーとして天候は最高。私もショットは良く、満足したゴルフでした。名物ホールはBT613ヤード、RT569ヤードの超ロングホール。飛ばせない私でもフォローの風に乗って3打がグリーンオーバーしてボギーになってしまったのはナイスショットの連続だけに無念でした。グリーンからは別府湾が一望できる眺望でした。Oさん96、Nさん98、若造91でした。終了後、福岡の友人の車に便乗して福岡へ行く。5回目の宴席には福岡支店在勤中の地元の後輩が顔を見せてくれた。彼から福岡在住の社員の動向を聞いた。当時60名の社員数だったが、15年後の様子は多様であった。私より年下なのに3名が亡くなり、病弱な者や離婚した者、反対に高齢なのに再婚した者、未だに独身の女子社員、出産した者、介護の仕事でスエーデンまで勉強に行った者等々興味深く、心配を含めて近況を聞いた。6日目は福岡空港で大学時代の友人と落合い、約2時間懇談した。彼が言うには17年ぶりだそうな。彼は72歳には見えない若い容貌だった。かくして5泊6日の九州縦断ツアーは無事終了した。5夜連続で焼酎・ビールを飲み、おいしい刺身を腹一杯食べた。ゴルフ3ラウンドをこなし、まだ体力は余力を残していた。どこかの社長サンのように「年間190ラウンドを消化し、朝7時から夜9時まで会社に居る超人的タフネスさ」には到底及ばないが、私は年齢の割には元気で、体力に自信を持った。『老造』に改名しなければならないかと考えていたが、まだまだ『若造』で通用するのは嬉しい。ゴルフは残念だが90を切れなくなってしまったが、各地の友人達に歓迎され充実した楽しい旅行でした。サラリーマンは仕事を無難にこなすことは当然だが、仕事を離れても退職後も親しく交流できる仲間を持つことが如何に重要かを再認識した今回の旅行でした。強行日程の旅はこれが最後と思っていたが、大分の友人は「秋に大分直行便でフグを食べに来い」と言ってくれた。良き友人に恵まれた環境と健康の有難さに感謝しています。

平成24年4月16日

渡 若造